

「主はあなたのそばに」 一使徒行伝講解説教 47-

使徒行伝 23章 11節～35節

説教 本庄侑子牧師

神様は、イエス・キリストの十字架と復活によって成し遂げられた救いの恵みに、全ての人があずかるように願っておられます。パウロは、その神様によって用いられてきました。しかし、ここにきてうまくいきません。捕らえられたまま、敵意は大きくなる一方です。

パウロは諦めずに祈り、奇跡を期待したかもしれません。かつて、牢に閉じ込められた時、地震が起こって、鎖が外れたことがありました。しかし今回、そのような奇跡も起こりません。事態はどんどん悪化し、結局、数百人の兵卒たちにとり囲まれ、絶対に逃げられない姿で、ローマへと運ばれていくことになりました。

しかし、それを見据えるかのようにして、主はパウロに語りかけられました。「しっかりせよ。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかしをしなくてはならない。」パウロからすれば、どんどん事態が悪化していくように見えていたその時、パウロをローマで用いるという神様の計画は進んでいたのです。神さまは、マイナス見えていることを通しても、ご自分の計画を推し進めることができるお方なのです。

そんな神様の力が及んでいたのは人の敵意だけではありません。人の悪意にまで及んでいました。千人隊長は、パウロをユダヤ人の敵意から助けるために動いたわけではありません。むしろ自分を守るため、自分の手柄のために、その決断をしたのです。しかしそれでも、それらを通して実現したのは人の思いではなく、パウロをローマに遣わすという神様の御心でした。

11節「その夜、主がパウロに臨んで言われた」は、直訳すると、「その直後の夜、主はパウロのすぐそばに立たれて、言われた。」です。敵意がヒートアップしていく中で奇跡も起こらず、恐れで震えていたかもしれないパウロ。自分の得、手柄のことしか考えられない人間に囲まれて、人間に絶望していたかもしれないパウロ。しかし、そのそばに、神様はすぐに来られたのです。そして、お語りになりました。

「しっかりせよ。」福音書で罪の赦しが告げられる時、主イエスがおっしゃったのと同じ言葉です。パウロはハッとしたことでしょう。ドロドロとしたこの世界。ドロドロとしたこの自分。しかし、それらの中で成し遂げられた神様の愛

と赦し。今、天におられる復活の主がいつも共にいて下さること。神の国の完成に向かって、パウロのための務めを用意し、それを成し遂げる力を必ずくださること。

確かに、パウロは今からローマへ運ばれることになります。それを止める力などありません。それでも、これから起こることは、人の思いをはるかに超えて進んでいく神様の御心なのだ。そう信じさせられたことでしょう。

そうして主の言葉が語られてから二日間、パウロの周りで事が大きく動いていきました。主の言葉なしでは、これらが神様の御心の中で起こっていることだとは到底思えなかったかもしれません。しかし、主は先んじてすぐそばに立ち、語って下さいました。

私たちが週の初めの日、このように礼拝に集められます。今、私たちのすぐそばにも、主イエスが来ておられるのです。そしておっしゃっている。しっかりせよ。今ここで前進しているのは、人の思いに見えるかもしれない。しかしそうではない。前進しているのは私の計画だ。あなたにはこの先で、私の御心の中で、なおなすべき使命がある。主の日の礼拝において与えられる御言葉は、その週に起こる全ての出来事を、神様の救いのご計画の中で受け止めさせるため、そして、その中で私たちになすべき務めがあることを思い起こさせ、それを担うために必要な信仰と力を与えて下さる御言葉です。

12節以降、主は言葉の上ではもう出てこられませんが、しかし、主はずっと、その後も、パウロのそばにおられました。敵意を向けられていた時も、人の策略に巻き込まれていた時も、なす術なくローマに運ばれていた時も、天におられる主が、聖霊においてパウロと共にいて下さり、全てのことを御手の内に置き、ご計画に従って導き、守っておられました。

今週も、神様の御心は、この世界にあるどのような罪にも打ち勝って前進し、実現していきます。主は言われます。「しっかりせよ。」今週も、私の救いの計画こそが前進していく。あなたには、そこでなすべき務めがある。それを行う力を、私は必ず与える。あなたのすぐそばに、私がいるのだ。

(記 本庄侑子)